

第4回魚沼市観光振興戦略推進委員会 議事録

| | |
|---------|--|
| 1. 会議名称 | 第4回魚沼市観光振興戦略推進委員会 |
| 2. 開催日時 | 令和3年11月15日(月) 10:00~11:30 |
| 3. 開催場所 | 魚沼市役所本庁舎 301会議室 |
| 4. 出席者 | <推進委員> 樺澤正人委員長、梅井雅行副委員長、角屋暢洋委員、小島由紀子委員 眞島靖委員、鈴木敦委員、山之内康浩委員、井口勉委員、鈴木一郎委員 藤島淳委員(統括アドバイザー) <事務局> 観光課 鈴木課長、皆川係長 |
| 5. 議題 | (1) 魚沼市観光振興計画の政策目標・基本方針・基本施策・数値目標の修正部分について (2) 魚沼市観光振興計画の推進体制について (3) アクションプランについて |

次第1：今後のスケジュールについて

樺澤委員長

観光振興計画について、委員の皆様からご協力を頂き、全体像が見えてきた。限られた時間の中でのご協力に感謝する。今後、市議会の産業厚生委員会への報告や、市民の皆さまから意見を聞くパブリックコメントが控えている。事務局より、今後のスケジュールについて報告頂きたい。

(事務局より以下スケジュールを説明)

- 11/30 庁議(市長含めた部長級会議)に計画とアクションプランを提出
- 12/14 議会(産業厚生委員会)へ報告
- 12月下旬 市民向けパブリックコメント
- 1月 第5回委員会開催(集まった意見を基に修正内容を協議)⇒庁議へ提出
- 2月 最終案を議会へ報告
- 3月 成案

次第2：議事

(1) 魚沼市観光振興計画の政策目標・基本方針・基本施策・数値目標の修正部分について

樺澤委員長

前回の委員会でも出た意見、意見調書で頂いた意見を踏まえ、各所修正を行った。修正点について事務局より説明頂きたい。

(事務局より説明)

樺澤委員長

地域ブランド調査における魚沼市の位置づけについて説明する。

魚沼市は県内で三冠を達成（魅力度、情報接触度、食品の産品想起率）。食品以外の産品想起率は県内トップ 21 の中では最下位（燕市、三条市がトップ 2）。全国でみると、魅力度は昨年（104 位）と比較して急上昇しているが、64 位止まり。観光意欲度は 129 位とまだまだ伸びしろがある。県内 1 位であった食品の産品想起率は、全国では 19 位となっており、昨年（11 位）からランキングを落としている。

各項目で上位を占める市町村は、圧倒的に北海道である。県内で全国トップ 10 入りしたのは、食品以外の産品想起率で燕市が 7 位のみ。

魚沼市は県内屈指のブランド都市といえるが、全国的にみれば三冠に輝いた項目も全て 3 桁の順位となっている。「魚沼産コシヒカリ」が食品の産品想起率、魅力度に大きな影響を与えていると想定されるが、その食品の産品想起率でランキングを落としたことは、次回の魅力度アップに一抹の不安を感じる。そのことより、魚沼市が「日本一美味しいコシヒカリのまち」であることへのアピール強化が必要であると考えられる。

事務局の説明について、質問や意見はあるか。 ⇒ 異議なし

(2) 魚沼市観光振興計画の推進体制について

樺澤委員長

魚沼市観光振興計画の推進体制について事務局より説明頂きたい。

(事務局より説明)

樺澤委員長

昨今の観光振興は、人口減少の傾向がある現代の「地域振興」としての位置づけとなっている。他地域の観光振興計画を見ると、観光資源、定住環境、観光来訪者の満足度が調和をしていないとうまくいかないケースがある。一時期の京都のオーバーツーリズムがその一例であると思うが、そういう意味では地域が主体となった推進体制が重要であると考えられる。

推進体制について意見や質問はあるか。 ⇒ 異議なし

(3) アクションプランについて

樺澤委員長

目標を単なる願望に終わらせないため、実践部会で考えた具体的なアクションプランが

ある。それについて事務局より説明頂きたい。

(事務局より説明)

樺澤委員長

アクションプランについてご意見を頂戴したい。角屋委員いかがでしょうか。

角屋委員

事業を進める中で、事業者ごとの役割があるが、事業予算についてはどこが負担するのか。

樺澤委員長

ものによっては、民間の資本に期待する場面が出てくると考えられる。観光振興は経済振興の一つであり、将来性のある（メリットがある）事業をお示しした上で、先行投資頂くことが必要になると考えている。

井口委員

観光振興計画を進めていくにあたり、実質的な取りまとめはどこがするのか。

樺澤委員長

プランの進行状況等のチェックや、参画を促すことも含めて、観光課が主体となって行っていく予定である。

井口委員

それでは今までの計画と変わらない。計画の内容はよくまとまっているが、実際に動くようになった場合、本気で取り組んで頂くために、それを促す組織を作るべきではないか。「推進する場所がどこにあるのか」を明確にすることは、とても重要であるとする。

事務局（鈴木）

計画を持っているのは観光課であるが、アクションプランの事業内容によって観光協会であったり、事業者であったりと主体が変わり、行政はそれをサポートする側にある。「この事業を主役として進めてほしい」とのお願いはするが、あくまで主体は民間事業者であると考えている。

井口委員

計画を進めていくのであれば、どこが調整をするのか。「情報や事業がラップしないように」という話は、個々に任せていけば個々に動いてしまう。調整するのが観光課であるというのであればそれでよいが、とても難儀であると思う。

事務局（鈴木）

実際には民間に直結する部分があるため、事業参画への促しや実証実験等、観光協会にお願いする部分も多くなると考えている。観光協会と観光課は表裏一体であり、年1回の進捗確認の際には、綿密に打合せを行い、その内容を示していきたい。

樺澤委員長

当然のことながら、市の財務は限られている。まだ「観光をサービス構造の主体におく」というジャッジを市がしていないので難しい部分もあるが、「ブランディング」や「観光経済」というものが「まちづくり」の重要なパーツであるという世の中の認識からすると、やはり「観光」を頭に置きながらまちづくりを進めていくことは、自然な流れであるとする。今まで、様々な慣習、旧習で行われてきた予算措置も、そのような考え方に見直していく必

要があると個人的には思う。場合によっては、観光課以外が持っているものを観光課に移管する等、組織変更も必要になるかもしれない。より良く改善を行っていくために、計画の7つの基本方針をより多くの方々に理解頂き、変わるための勇気に繋げる必要があると考えている。

眞島委員

7つの基本方針に紐づけたアクションプランがあるが、全て一気に行うことは難しいと考える。優先順位をつけてはどうか。

事務局（皆川）

仰る通り、限られた時間や人力の中で一気に行うことは難しいと考えられる。順位付けについて明記できるように検討していきたい。

梅井副委員長

アクションプランにおいて、観光課以外で市役所の部署を主体団体として明記する予定はあるか。

事務局（鈴木）

アクションプランを実施していく段階では、他部署との横の連携がもちろん必要になるが、それは今回の計画に関係なく常日頃から意識しなければならない部分であり、明記する予定はない。また、事業者の選定についても、アクションプランの内容を加味し、様々なご意見を頂戴しながら適任者を見定めていこうと考えている。

樺澤委員長

計画を策定し、公開することで様々な連携が容易になると考えている。

事務局（鈴木）

市としては、計画制定後には各部署へ共有し、関連部署に認識させると共に、関連事業として予算要求するといった流れになることも考えられる。

樺澤委員長

山之内委員ご意見ございませんか。

山之内委員

計画の中心に「コシヒカリ」があり、それに関連付けた連携はとても重要だと考えている。「食」としての関連で「魚沼ならではの食材」を使用したり、景観（田んぼ）を観光資源にしたり等、総合的な展開に期待したい。

（アクションプラン設定背景について、樺澤委員長より説明）

鈴木敦委員

アクションプランの優先順位は、やはり明記するべきであると感じた。難易度なんかも明記することで一覧で見た時にわかりやすい。

小島委員

内容はとても良いものが出来ていると思うが、過去、似たような計画を策定し、うまくいかなかった要因は、「現場との温度差」が一番だと考えている。コロナ禍で観光事業が大打撃を受ける中で、「大変だ」と言いながら何もしない人、大変な中でも何かしようとする人

の差が歴然としている。事業毎に「何をすべきか」を提示し、手引きすることで全体がより良い方向に向かうのではないか。

樺澤委員長

例えば、「デジタルが苦手だ」という高齢の方が、最新式の車、除雪機、農機具なんかは使いこなす。興味があることは、なんとか修得しようとする。そこから逆算すると、「観光はまちづくりの総仕上げである」との考え方の中で、「観光」に興味がなくとも、市民であれば「まちづくり」には興味があるはずであり、その観点から同じ方向を向くことができると思う。市民の元気が出るような明るいニュースを発信し、鼓舞することも重要であると考ええる。

藤島委員

10月20日に表参道のネスパスにテントで「魚沼産コシヒカリ」を謳ったおにぎりを販売していた。そこで使用されていたお米は、よく見るとすべて南魚沼産であった。また、魚沼に行くことを話し、「そろそろ雪を見ながら『八海山』で一杯だね」といった友人も、もっと言えばこの仕事をやり始める前の私自身も、魚沼市と南魚沼市の二つがあることを知らなかった。そのことから考え、踏み込んだ話になるが、話に挙がっている「県内三冠」は南魚沼市の行政や事業者の方々の努力も含まれた結果になっていると思っている。この結果を見た南魚沼市の方々は、「これからは『南魚沼市』として売っていこう」という気持ちになると予想でき、魚沼市の三冠は手放しに喜んでいてはいけなさと感じている。むしろ、「魚沼市として立ち上がらなければならない」というデータの読み方をしないとイケないのではないか。

また、強力な推進体制を整えていくためには、事業を推進している「組織」ではなく、責任を担う「人物」を明確化する必要があると考えている。失礼な話になるかもしれないが、ここに集まったメンバーは全て市長から委嘱された。であるのであれば、市長が「魚沼市はコシヒカリを掲げて観光でいくぞ」という強烈な音頭をとってほしいと考える。あるいは、その全てを任された鈴木課長が音頭をとるのか。いずれにせよ、その人物が明確化されなければ、同じ方向に進んでいかないため、そこをはっきりさせる必要がある。

樺澤委員長

旗振り役、自分事と考えることはどちらも本当に重要である。計画がしっかりと推進されるため、今後、その体制も検討していく必要がある。

次第3：閉会にあたり

事務局（鈴木）

最後は核心に迫っていただき、身の引き締まる部分ありがとうございました。午後の実践部会でも「自分事」として捉えて頂く中で、様々な意見を頂けると考えている。本日お示した計画案やアクションプランについては、冒頭でお話したスケジュールに沿って制定に向けて進めていきたいと思っている。予定では年明けになるが、修正された部分を含め、固まった内容を報告する。

以上